
夜更かし

†アラクネ†

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

夜更かし

【Zマーク】

Z9971K

【作者名】

十アラクネ+

【あらすじ】

作者ことアラクネが見た夢を、そのまま小説にしてみました。

休みの前夜。

早々に帰宅してから食事を済ませ、時間をかけて入浴をしたら、後はゲームと映画でくつろぎタイム。

時間はあつという間に過ぎ去り、気付くと深夜二時を回る時間。ちょうど映画も終わった所だ、そろそろ寝よつかと欠伸など漏らして。

ハンドホールが流れる画面を見ながら思い切り伸びをした時、突然携帯電話が鳴り出した。

『あ～っ！ 良かつた起きてたアラクネ～っつ』

公衆電話の表示にやや警戒したものの、出てみれば何のことない、近所に住む友人の声である。

『今近くのコンビニだよお～、合コンあつてさあ、終電で帰つて来たんだけど、駅に着いたら変質者がいたんだよお～っ』

深夜に変質者と遭遇とは、なかなか由々しき事態である。

しかしいくらか酒が残っているせいか、彼女の話口調からはイマイチ危機感が伝わって来ない。

『気味の悪い女でさあ、田舎のバチツと見開いて、口元だけ一ヤつかせてえ』

女はバサバサした長髪の隙間から血走った視線を向けて、手に持った鍔をしきりに開閉させていたのだと叫ぶ。

ジャキン、ジャキン、ジャキン、ジャキン、ジャキン、……

深夜の変質者+凶器ときたら、もう完璧だ。さすがに恐怖を感じた彼女は携帯電話の充電が切れていたこともあり、とりあえずコンビニに入つてやり過ごそうと考えたらしきのだが。

『立ち読みしてゐ間もじまらへ角の電柱からすりとけりをジロジロジロ、ああもう、マジ気持け悪つ！ マジ頭ヤバくない？』

痴漢に合つた女子高生みたいなその口調で、私は少しだけ苦笑する。

それにしても。まあ、一人暮らしの彼女をこのままアパートに帰すのもやや気掛かりだつたりして。

「今つて交差点とこのHブリーマートでしょ？ ここからダッシュでうちまで来ちゃになよ。明日田舎だしき、泊まつてこなよ

『ンギーから家までは、本当に田と鼻の距離なのだ。

『アラクネたん優し過ぎ？ すぐ行きますう。』

電話を切り、ふつと一息。

深夜の慎ましい静寂が部屋に戻り、私は何とはなしに窓を開ける。

夜の涼やかな風。その中にアスファルトを叩くカツカツという音が響いて混じる。

友人がヒールで必死に走つて来る姿を想像して、思わず噴き出してしまつ。

玄関の鍵を開ける為に、下の階に行きかけた。

が、案の定自宅前で止まつた足音を聞いて、私はふと窓辺に戻つた。深い意味はない。本当に、何となく。

私は窓から体を乗り出し、下に向かつて呼び掛けた。

親しい友人に向けた気軽な口調に応じて、下にいた相手が顔を上げた。

長い髪が脂に汚れて夜風にもそよがず、その髪束の隙間から、大きな血走つた目が私を真つ直ぐに見上げていた。

真つ赤に充血した目だつた。ただ、唇だけは引き攣れたようにピクピクと口角を上げて微笑みの形に歪められて……

ジャキン、ジャキン、ジャキン、ジャキン、ジャキン、ジャキン

……

(後書き)

作者の見た夢をそのまま小説にしただけの作品です。なので、オチには様々な解釈があると思います。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9971k/>

夜更かし

2010年10月28日06時33分発行